

「東郷学園義務教育学校の東郷文弥節人形浄瑠璃伝承活動の取組」

1. 学校名	薩摩川内市立東郷学園義務教育学校
2. 学年・人数	4年生、5年生～7年生探究グループ 計66人
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 令和6年9月～10月 ふるさと・コミュニケーション科(本校会議室) 令和6年10月31日 学園祭りハーサル(本校体育館) (2) 発表の日時・場所 令和6年11月1日 東郷学園義務教育学校学園祭(本校体育館)
4. 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について	(1) 名称 東郷文弥節人形浄瑠璃(とうごうぶんやぶしにんぎょうじょうるり) (2) 由来 元禄11年(1698年)頃、薩摩藩主島津氏の参勤交代に随行した東郷の郷土たちが帰国の途中、上方(京都)で当時流行の文弥節人形浄瑠璃を観て、感嘆した。その後郷里の子弟の士気を高めるために、上方(京都)から文弥節の師匠を連れ帰り、広めたと言われている。 (3) 構成等 語り太夫・三味線・太鼓・拍子木はそれぞれ一人で行う。男人形は一人、女人形は二人で操る。昔から「人形おどり」とも言われ、踊りが大きく、中でも「かかり」または「だんぎ」といわれる太鼓や三味線・拍子木ではずみをつけて、足拍子を取りながら人形とともに大きく動くところがある。斧淵の郷土たちによって伝承され、語りや人形の動きは素朴なのが特徴である。
5. 文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	5～7年生のふるさと・コミュニケーション科の学習において、「プロジェクト伝統チーム」コースを設定して伝承活動の取組について学習している。過去、学習発表会や5～7ステージ交流学习で発表した。 児童生徒に、東郷地域の一員としての自覚や地域を誇りに思い、大切にしていこうという心情を育むためにこれらの学習は続けていきたい。
6. 取組の様子(練習状況、発表の場等)	 文化祭での発表(5～7年)  広報ポスターを店舗に掲示(4年)
7. 感想・意見(参加児童生徒・保護者・保存会・教員等)	【参加児童】 人形浄瑠璃について、調べられた。人形の動かし方や、いつから人形浄瑠璃がはじまったかについて、発信できたし、しっかり文章・図などを使って、みんなに分かりやすく原稿を作り、発信ができた。